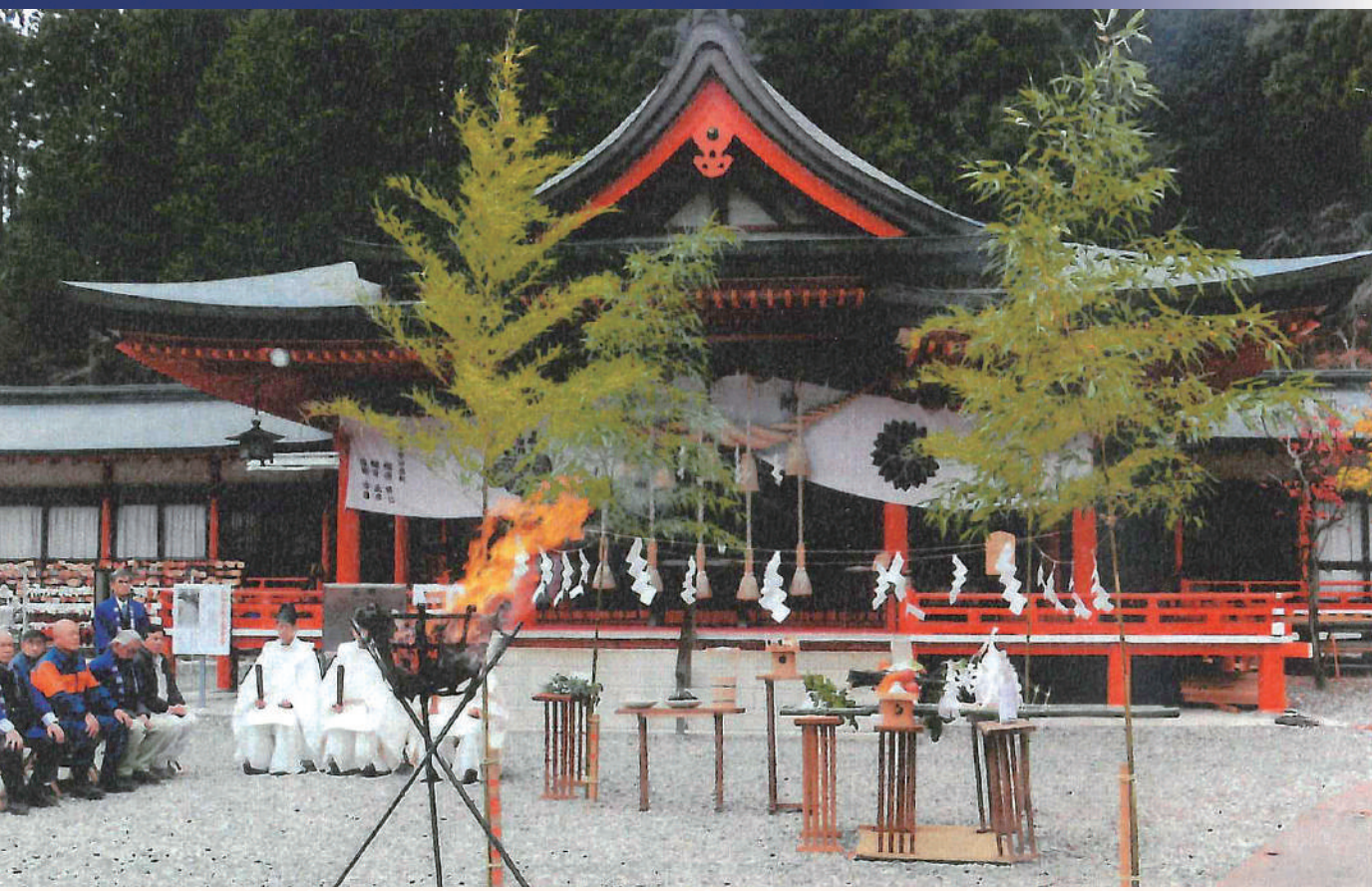
# 山梨県神社庁報

# かえがね

祝祭日には国旗を掲げましょう

2月11日　建国記念の日
2月23日　天皇誕生日
3月21日　春分の日
4月29日　昭和の日

令和4年新春号　（第196号）



御嶽山金櫻神社鎮火祭

## 謹賀新年

庁長　根津泰昇
副庁長　小佐野正史
同　佐々木高仁
本庁評議員理事　古屋真弘
支部長理事　秋山忠也
同　日原盛幸
同　植松真芳
同　山本純司
同　内藤正隆
同　石原貞夫
同　上文司厚
同　渡邊學
神政連本部長理事　渡邊平一郎
協議員会議長理事　小山利行
教化委員長理事　中村宗彦
指名理事　桃井一祝
同　森越義建
総代会会長理事　中田欽哉
総代理事　堀内邦満
顧問　羽中田進
監事　志村重治
参事　坂本宗正
主事　飯田直樹
補録事　金子雄紀
同　深澤宜彦
同　佐藤忍

山梨県神社総代会　役員一同
神道政治連盟山梨県本部　役員一同
山梨県神道青年会　役員一同
山梨県教育関係神職協議会　役員一同
山梨県女子神職会　役員一同
山梨県神職保護司会　役員一同
山梨県敬神婦人連合会　役員一同
山梨県神道雅楽会　役員一同
山梨県氏子青年協議会　役員一同

# 庁長挨拶

庁長　根津泰昇

紀元二千六百八拾二年、令和四年、壬寅年の輝かしい新春を神社関係者各位がご家族お揃いでお迎えになられた事とお慶び申し上げます。

畏くも天皇、皇后両陛下におかせられましては、天機愈々麗しく、コロナ禍の世相の中にありながら日々公務にあたり精励遊ばされておられます事、慶賀に堪えない次第であります。昨年七月に開会された東京オリンピックでは、日本国の象徴のお立場で開会の宣言を発せられましたことは大変意義深い事と感激を新たに致しました。

本宗と仰ぐ神宮におかれましては、コロナ禍の世相、通常の参詣者は得られない状況が長く続きましたが、緊急事態宣言が解除された後は、参拝者が戻りつつあることは何よりでございます。然しながら、大麻頒布始祭を始め神宮での諸行事が縮小、中止になったことは残念でなりません。

昨年は、山梨県神社庁が関わる施策の多くは、中止、延期が余儀なくされました。然し二月十一日に実施された、天皇陛下御即位奉祝山梨県民大会は式典のみの開催となりましたが、多くの諸団体の皆様に御協力を賜り盛会裏に実施されたことは感謝に堪えません。

十月に開催された山梨県神社関係者大会は人数制限を実施しての開催で有りましたが、ＹＣＣ県民文化ホールで田中総長・神宮大宮司を始め多くの御来賓にご参列頂き開催出来た事は有難く存じました。

新穀感謝祭につきましても、コロナ感染が少々落ち着いている時期でしたので、各支部のご理解、御協力を頂き参列できた事に安堵いたしました。

山梨県神社庁におきましては、大麻頒布始祭を始め、初任神職研修も感染症予防対策を取り実施いたしました。又神殿例祭、恒例祭も恙無く斎行された事に感謝申し上げます。

最近は変異株オミクロン株の感染が予想されておりますが、大事に至らないようにと願うしかありません。

本年も幾多の諸施策が山積しております。特に神宮大麻頒布百五十周年の佳節を迎えます。頒布活動の推進に邁進する年でもありますので、関係者各位にはご理解、御協力を賜りたくお願い申し上げます。神社本庁の本宗奉賛活動強化推進委員会としては、一、動画のＣＭ放送二、ＷＥＢ雑誌に掲載　三、全国ラジオＣＭ放送　四、新聞広告掲載　五、神宮大麻全国頒布百五十周年標語公募　六、神社本庁公式ホームページに神宮大麻関係ページを特設　以上六項目の記念事業を計画しております。山梨県神社庁も記念事業を計画致したく存じます。

令和四年、壬寅、五黄土星の運勢は、壬寅を乳寅を指します。故に母寅なので乳を与え狩りの手法を教え子育てに励む生活を営むので油断は禁物で隙を見せない事が肝要です。五黄土星は、現状維持に徹し、保守保全に努めて下さい。向上を目指す良策は、相手の気持ちを尊重し、優しい心で接し、気を引き締めましょう。

運気向上の星の人は、四緑木星次いで三碧木星の星の人。運気低迷の星は、歳破を受ける二黒土星の星の人、衰退運の一白水星の星の人、変動運の五黄土星の星の人です。参考にしながら良運を引き寄せ大いにご活躍下さい。

山梨県神社庁は役員の改選期に当たる年でございます。私は山梨県神社庁長を三期九年、神社本庁役員を二期六年務めさせて頂きましたので次の世代にバトンを引継ぐ事を決断致しました。長きに渡りお力添え賜りました事に厚く感謝申し上げます。

新たな年がより良い年であり、平穏で穏やかな年になります事をご祈念申し上げ御挨拶と致します。

## 敬神生活の綱領

神道は天地悠久の大道であって、崇高なる精神を培ひ、太平を開くの基である。

神慮を畏み祖訓をつぎ、いよいよ道の精華を発揮し、人類の福祉を増進するは、使命を達成する所以である。

ここにこの綱領をかかげて向うところを明らかにし、実践につとめて以て大道を宣揚することを期する。

一、神の恵みと祖先の恩とに感謝し、明き清きまことを以て祭祀にいそしむこと

一、世のため人のために奉仕し、神のみこともちとして世をつくり固め成すこと

一、大御心をいただきてむつび和らぎ、国の隆昌と世界の共存共栄とを祈ること

## 新年挨拶

山梨県神社総代会
会長　中田欽哉

令和三年の年明けとともに今年は武漢ウィルスも下火となり通常の生活に戻れるのではないかと淡い期待をしていましたが、今年も武漢ウィルスの猛威は衰えず窮屈な生活をしいられている中、徐々にウィルスの実態も解明されつつある様で、スポーツ観戦も規制があるも無観客でなくなり東京オリンピックも開催され、経済界も教育界など諸々の団体等も少しずつ動き始め神社界に於いても二月に天皇陛下御即位奉祝山梨県大会を二月十一日にＹＣＣ県民文化ホールで行い十月十八日も同じく県民文化ホールで山梨県神社庁設立七十五周年記念並びに令和三年度山梨県神社関係者大会をコロナウィルス感染症対策の中無事に開催され、十一月二十五、二十六日は伊勢神宮新穀感謝祭に二十九名の神職・総代・崇敬者等と参拝をして来ました。令和三年という年を振り返ってみるにコロナウィルス感染の事を中心に政治も経済も他の諸々の事象もこの一年間対応して来た様に思われる。令和四年を迎え氏神様に初詣に行き清々しい元旦の朝、家族の健康と日本の平和を祈り帰路につく時にふっと思ったのは、総代長として神社界に係わって十数年に成り、色々な思い出が蘇る。特に印象に残った出来事の中の一つに安倍首相の時、Ｇ７の伊勢サミットで、伊勢の神宮に参拝した折に各国の大統領・首相等が同じ様なコメントをしていて神宮の神域に聖なるものを感じると言い、特にドイツのメルケル首相の言葉が印象に残っている。安倍首相に向け「日本の強さの源泉をこの伊勢の神宮の参拝でみた」と言うのを知った時、なぜ伊勢神宮参拝に日本の強さをみたのかと思った時、日本という国は遥か昔二千六百八十二年という長き王朝が続きこの長い年月の中で色々の文化が熟成し開花してきたのではないかと思う。明治になり鎖国が解かれ欧米諸国からあらゆる職業の人達が日本に来て、日本の文化の高さ民度の高さに驚き興味を持ち極東のアジアの小国である日本国の存在に対し西洋の国々が研究をした様です。西洋の文明には遅れをとっていたかもしれないが、文化の面では遥かに日本の文化の方が優れていたと思われる。例えばイギリスの女性旅行作家であるイザベル・バードは言っている。世界で女性が一人で旅が出来るのは日本の地ではないかと、又ギリシャ出身の小泉八雲は日本の神道に興味を持ち研究しようとしたが、あまりにも資料が少ないため、資料の多い仏教の研究をしたが、やはり最後に「私の卒業論文である」と言って神道の事を記した本があります。又茶道、華道など欧米にもティータイム、フラワーアレンジメントという習慣はあるが、日本に於いては同じ習慣でも「道」というそこに精神性、哲学など求めて行き、剣道、柔道又しかりで単なる戦いの道具でなく術から道へと何かを極めるものとなる当にほんの一例ではあるが、これが文化であり現在では世界の人々が礼賛している様です。この二千六百数十年の長きに続く皇統と神社が基礎となり、強い日本である様、令和四年をコロナウィルスに負けず政治、経済、外交なども負けず、一年を無事に過ごす事を、令和四年一月一日の初詣で帰りにつらつら思いながら帰路につきました。寒さ厳しくなるのでコロナに風邪に気をつけ健康に留意して下さる事を切に思う次第です。

# 令和三年十月神社本庁定例評議員会開催

本庁評議員　古屋真弘

去る令和三年十月二十日午後一時から、神社本庁大講堂に於いて、神社本庁定例評議員会が開催され、本県からは根津庁長、古屋本庁評議員の二名が出席した。

開会儀礼の後、鷹司統理から「新型感染症が終息し、一日も早い平穏な生活が戻ることを願ってやまない」。また来年に神宮大麻全国頒布から百五十年の節目を迎えるにあたり「この機を神宮への関心の好機と捉え、引き続き神宮大麻頒布向上のためにご尽力をお願いする。」さらに人口減少や少子高齢化の進行により斯界を取り巻く現状は厳しさを増し神社護持に大きな影響が及ぶ事を憂慮「神社関係者は一意専心、神社神道の興隆発展に邁進されるよう期待してやまない」との挨拶がなされた。

次に中山議長が登壇し、昨年の十月評議員会以降に帰幽された神社関係物故者に黙祷が捧げられた。

議事に入り、まず前日に開催された議案審査特別委員会の審議結果について、工藤均委員長から報告があり委員会報告の七件を上程する事を決定した旨報告があった。次に「令和二年度神社本庁業務報告」が上程され、報告通り承認された。次に、今年五月の評議員会に変わり開催された常任委員会で議決された事項の報告として「令和二年度一般会計歳入歳出予算（第二次補正）」「令和三年度一般会計歳入歳出予算」「一般会計資金年度内一時繰替の件」「令和三年度御代替関係特別会計歳入歳出予算」「役職員進退に関する規程」「事務の一部を変更する規程」が一括上程、田中総長以下説明を行った。

次に、令和二年度の決算関係として「一般会計歳入歳出決算」「御代替関係特別会計歳入歳出決算」「各種資金及び保管金会計収支計算書」「財産目録」「事業会計決算」「神社賠償責任保険会計収支計算書及び財産目録」が上程され一括認定された。このうち一般会計歳入歳出決算は、歳入が五十九億三千万余円、歳出が五十二億九千万余円となり、歳入の主たる部分が神宮からの本宗交付金三十九億円、歳出の主なものは神徳宣揚費の四十一億円である。よって六億四千万余円が令和三年度に繰越となった。

次に「令和三年度一般会計歳入歳出補正予算案」「令和三年度御代替関係特別会計歳入歳出補正予算案」が上程、原案通り承認された。

次に追加議案七件が上程、提案者による説明の後、すべて原案通り可決された。

閉会にあたり田中総長より「神社本庁憲章と庁規の間に整合性の取れない部分もあり見直しの必要性を示しながら、今後とも神社本庁の諸施策に御理解御協力を頂くよう心からお願いを申し上げる」と述べられた。続いて鷹司統理が閉会の挨拶をされ「年に二回しか開催されない評議員会では情報の吸い上げが十分でないと指摘、より適正に運営する必要性を述べられた」。以上を持って、評議員会は終了した。

## 御嶽山金櫻神社鎮火祭

宮司　志村幹人

師走の風吹き上げる五日、氏子崇敬者多数参列の下「鎮火祭」を斎行。「鎮火祭」は当社の「社例年中行事控（寛政七年奥書）」に十一月二日と記載されている神事である。もとより「鎮火祭」は「神祇令」に六月と十二月の大祓式の後に続けて行う祭祀と定められていた。後に民間行事となり各神社等での行事となったものである。

大祓式で悪疫退散、無病息災を祈った後行うのは、火の災難は人為的な要素が含まれているので啓蒙的な意味合いもあるのであろう。

祭事の後、産土神・迦具土神を青竹で作った御輿を神主・消防団員等で神社の東南・天狗岩（天狗社）に担ぎ上げ安置し、参列者全員で玉串を捧げ、郷内の無事平安・安寧を祈願した。

この天狗岩は富士山を眺望出来る場所で、神輿は富士山に真正面に向けて安鎮することが肝心で、少しでも方向が外れると迦具土神の怒りを受けて災事が起こる。正確に向けておさめなければならない。

富士山の御祭神・木花開那姫神は迦具土神の荒ぶ最中無事に御子神を御生になられた。姫神が火の災難を避け得た霊力をいただく事により更なる鎮火の威が増すことになる。

新しい年に向い諸々の災事、特に迦具土神の御心を鎮め和らげ又金櫻神社の御神力をうけて穏やかな国原であること、来年もまして安らかな郷内であることを祈りながら祭事を終えた。

# 神宮新穀感謝祭

甲府支部
稲積神社権禰宜　保田　俊

十一月二十五、二十六日山梨県神社庁甲府支部主催の伊勢神宮令和三年新穀感謝祭に参加させていただきました。昨年はコロナの影響も有り二十五名での参拝でしたが、今年は四十名での参拝となりました。一日目は、甲府各地でバスに乗車し、全員揃ったところで支部長挨拶の後、山梨県神社庁恒例の顔洗いの行事で始まりました。最初の目的地は愛知県の岩津天満宮での自由参拝の予定でしたが、服部憲明宮司様のお計らいにより、正式参拝の後、宮司様より岩津天満宮の由来等の講話を聞かせていただき、宮司様以下職員の皆様のお見送りを受けて、名古屋で昼食を取り宿泊地鳥羽へ。二日目は外宮「豊受大神宮」での御垣内参拝の後、内宮「皇大神宮」において御垣内参拝の後、大々神楽の特別奉納を参観し、神宮会館にて昼食をいただきました。

新穀感謝祭とは、収穫された新穀を献上し、五穀の豊かな稔を授けて下さり、日々の生活に平安を授けて下さる大神様の神恩に感謝のまごころを捧げるお祭りです。十一月二十三日は、天皇陛下が天神地祇すべての神々に収穫を感謝され、天皇陛下みずからが新米を召し上がる大切なお祭りです。今では「勤労感謝の日」となっていますが、「勤労を尊び、生産を祝い、国民が互いに感謝し合う日」という意味があります。今年も一年無事に過ごせました事に、大神様に感謝申し上げ帰路につきました。

峡北支部
支部長　石原貞夫

まだコロナウィルスの終息がみえない中、十一月二十五、二十六日の両日で伊勢神宮新穀感謝祭に行って来ました。

思えばこの新穀感謝祭の参拝も私にとって丁度区切りの二十五年間連続の感謝祭となりました。二十五年間この神宮参拝を通し思う事は多々ありますが、神職としての原点が神宮に有ると思う。というのも大学の時、神宮実習に参加した時に豊受大神宮の「朝御食」の神事を見学した時、祖父が食事の際に「早く飯をけぇ」と言っているのをずっと甲州弁とばかり思っていたのが、この外宮の「あさみけ」の「け」は祖父が言っていた「飯をけぇ」の「け」と同じで祖父は共通語を使っていたことに気づき日本語のおもしろさに興味を持ち、大和言葉には一音一音に意味があり、又同意異語が多いのは奈良・平安時の頃は音が十一か十二音あったといわれているのも興味深く又神職として祝詞作文をする時もこの大学生の時の実習で外宮に於ける朝御食の神事の見学が私の神職としての原点の一つに成っている事を思い乍ら今年も神宮参拝し、二十五年間参拝する中で何か一つでもいいから新しい発見をし、又神社神道の奥深さと日本人が面々と受け継いで来た遥か昔、縄文時代から続く米作りに対する神への祈りと感謝を次世代に伝えて行くべく、神職として役割を感じた今回の伊勢神宮新穀感謝祭でした。

# 神社庁神殿新嘗祭

東山梨支部　副支部長　田邉芳弘

令和三年十一月十七日午後一時より、神社庁に於いて神殿新嘗祭が斎行されました。今年の当番の東山梨支部員五名が奉仕し、斎主黒戸奈神社禰宜田邉芳弘、副斎主氷川神社宮司髙野正興、祭員玉諸神社宮司網藏五十鈴、同唐土神社宮司小田切宣幸、典儀大嶽山那賀都神社宮司日原盛幸で奉仕斎行しました。

雅楽奉仕は、山梨県神道雅楽会の皆様方に奉仕をしていただきました。

世の中はコロナウィルスの蔓延する中、コロナ禍に配慮し当日は参列者をしぼる中で、同日行われる神社庁神職、総代の役員会もあり、役員の方々の参列のもと斎行されました。

神殿御扉を開扉し、天照皇大神、山梨県内の神社の八百万大神等の高き尊き御恵をいただきもちて豊かな実りの秋を迎え、よろずの産業をも繁栄せしめ賜う事を尊び悦び神の恵に感謝し海川山野の種々味物供奉りて新嘗祭を斎行し、直会は御神酒で乾杯しコロナウィルスに配慮した直会になりました。感染対策に配慮する中、神事は厳粛に斎行されました。

本来ならば、直会で話もはずみ、良い交流が出来るところでしたが残念に思われました。

# 神政連山梨県本部衆議院議員選挙報告

神政連山梨県本部　本部長　渡邊平一郎

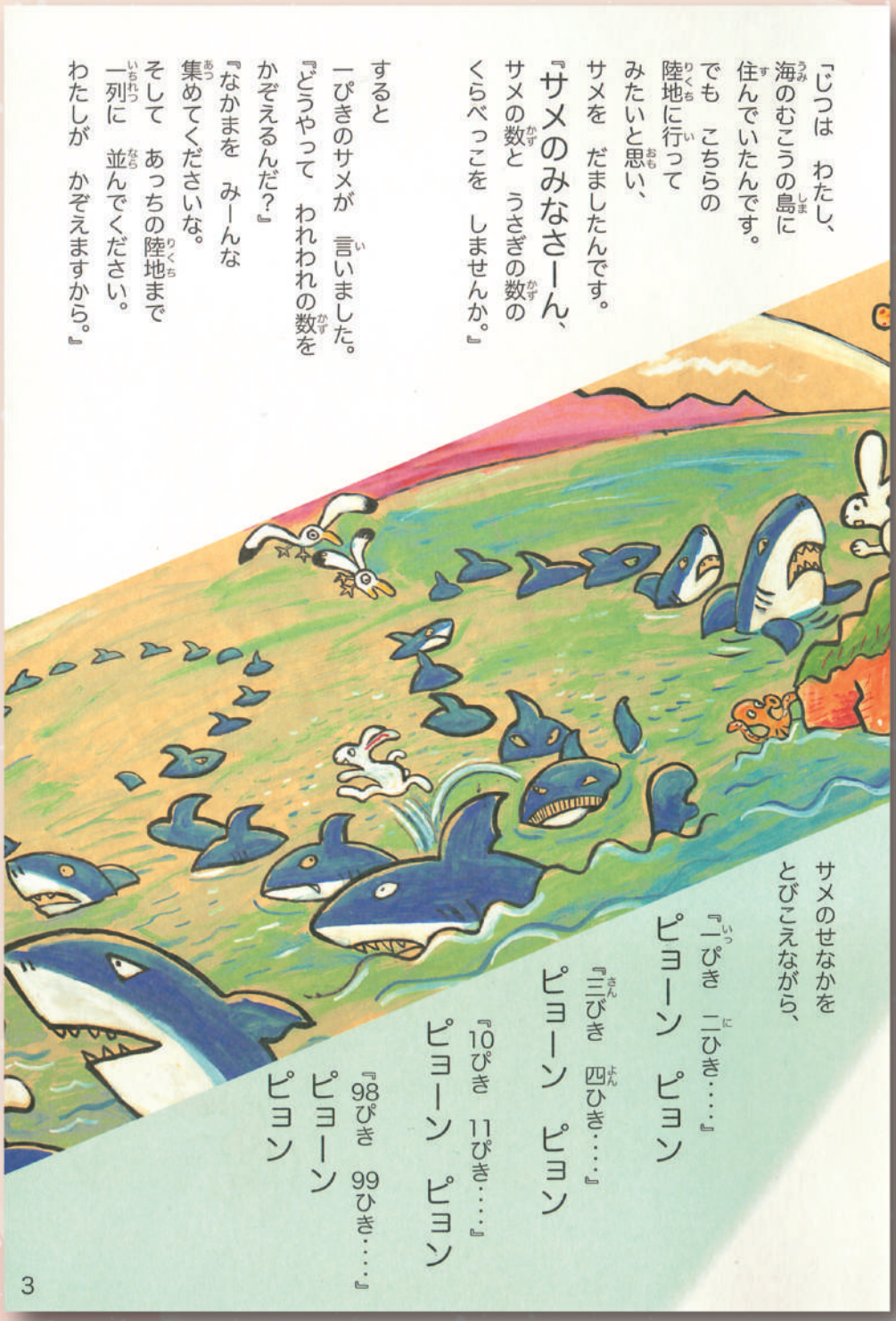
第四十九回衆議院議員選挙が十月三十一日に投開票されました。事前の出口調査に於いては「自民党は大敗して立憲民主党を中心とした野党が勢力を増やす」との報道が主でありました。結果は、自民党が十五議席、立憲民主党が十四議席、共産党が二議席の減と、維新の会が三十一議席の増という結果でありました。本県に於いては、苦戦が予想された一区の中谷真一候補が、中島克仁候補を破り、初めて地方区に於いて当選を果たしました。いままで山梨第一区に於いては、なかなか勝利することができませんでした。当初、県有地の借地料をめぐり県議会が三つに分かれその対立の中での選挙でありました。同じ自民党県連の内での分裂ではありましたが、選挙への影響が心配されました。数人の県議会議員の先生方に問い合わせましたが、それぞれが口を揃えて「大丈夫です。選挙では総てが自民党ですから」との答えでした。半信半疑ではありましたが結果は、いままでにはない結果でありました。二区に於いては、いままで保守同志の選挙であった長崎幸太郎氏が知事に転出した為、自民・立民の対決になりました。事前に堀内詔子候補が、コロナワクチン担当大臣となり知名度がかなりアップされ盤石な体制でありました。結果は、一区、二区共に地方区で両候補が当選しました。神道政治連盟の推薦候補として推薦状を渡し神政連山梨県本部の会員の皆様の協力、御支援を戴いた賜物だと思っています。私も神政連の幹事長の時からも含めて初めて地方区での二区独占を経験しました。感無量であります。が、令和四年七月に実施される第二十六回参議院議員通常選挙に於いて地方区の山梨選挙区で、自民党候補に当選いただく為にも自民党山梨県連には一つになって、より良き候補を選出していただきたいと思います。比例区では、神道政治連盟では、「山谷えり子」現参議院議員を推薦候補として決定しております。神政連の綱領に向かってより良き国家を創り子孫に残し続けてゆく為に神道政治連盟は活動を続けます。今後も増々の御協力、御支援を宜しくお願い申し上げます。

# 絵本 日本の神話

## 大国主の物語（第二話）

「一般財団法人　日本文化興隆財団」提供
問い合わせ　東京都渋谷区千駄ヶ谷四―五―十
電　話　〇三―五七七五―一一四五
一冊　二〇〇円

お子さん、お孫さんと、
神話の世界をお楽しみ下さい。


「じつは　わたし、
海のむこうの島に
住んでいたんです。
でも　こちらの
陸地に行って
みたいと思い、
サメを　だましたんです。
『サメのみなさーん、
サメの数と　うさぎの数の
くらべっこを　しませんか。』
すると
一ぴきのサメが　言いました。
『どうやって　われわれの数を
かぞえるんだ？』
『なかまを　みーんな
集めてくださいな。
そして　あっちの陸地まで
一列に　並んでください。
わたしが　かぞえますから。』
サメのせなかを
とびこえながら、
『一ぴき　二ひき・・・』
ピョーン　ピョン
『三びき　四ひき・・・』
ピョーン　ピョン
『10ぴき　11ぴき・・・』
ピョーン　ピョン
『98ぴき　99ひき・・・』
ピョーン
ピョン
3

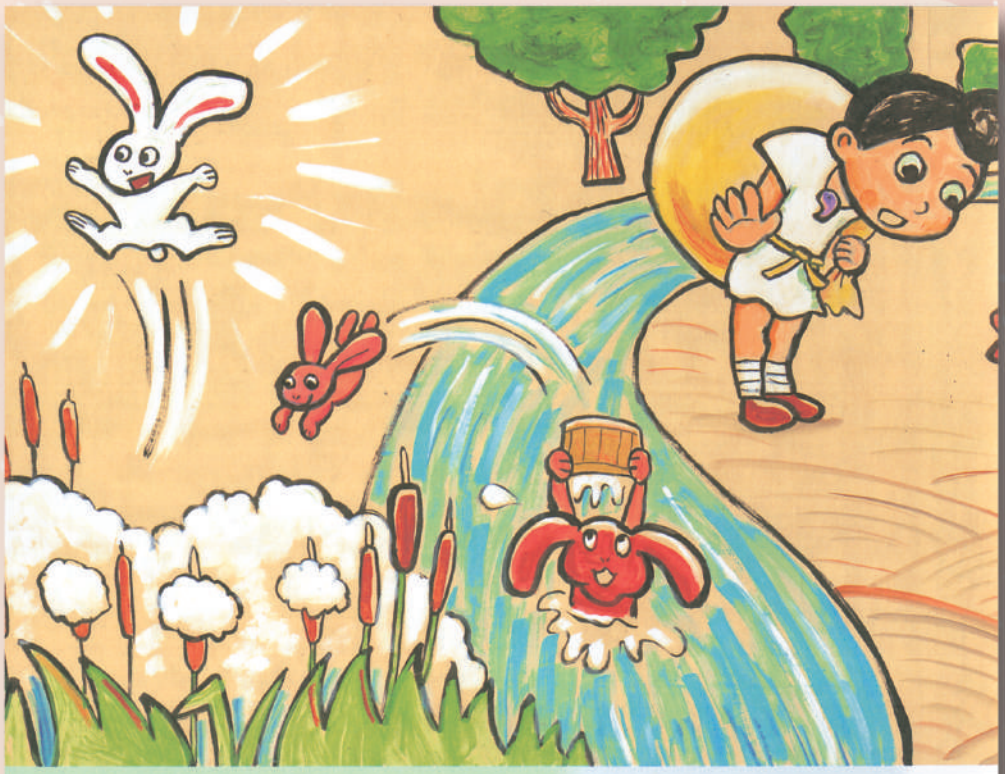
さいごの一ぴきというときに、
つい　言ってしまったんです。

『やーい、みーんな　だまされた。
むこう岸に　わたりたかっただけなのさ。
橋を作ってくれて　ありがとさん！』

『うさぎめ、だましたな、ゆるせんわい！』
おこったサメが　おそいかかってきて

ガブリッ　ムシャリッ。

白い毛を　ぜんぶ　むしりとってしまったのです。
そして　このありさまなんです、
トホホ　・・・。」
話を聞いていた　オオクニヌシ。
「それは　かわいそうに。
うさぎさん、ぼくの言うとおりに　してごらん。」



「まず　川の水で
からだをきれいに　あらってごらん。」
うさぎは　川に入って
ジャブ　ジャブ　ジャブ。
「あー　きもちいい。
いたいのが　なおってきたよ。」
「そのあと　あの　がまのほわたに
くるまってごらん。」
ふわふわの　ほわたに　とびこんで
しばらく　ごろごろしていると、
からだのきずは　すっかりなおって
もとの　しろうさぎに。
「わーい、オオクニヌシさま、ありがとう。」
「うさぎさん、もう　だましてはいけないよ。
それじゃあ　元気で、さようなら。」

5

（一九七号　第三話へ続く）

# 総代広場　第七回

〈南都留支部〉

小室淺間神社　総代会長　田村佳益

令和四年を迎え、コロナウイルスが治まり、健全なる社会生活が営まれる世の中になりますことを心より願っております。

令和二年三年とコロナウイルスに苦しめられ、当小室浅間神社に於いても、神事の簡素化へと余儀なくされ、二年三年と例大祭の流鏑馬神事は午前中での終了となりましたが、下吉田地区の火事・揉め事に関する流鏑馬占人に依る馬蹄占いは、例年通りに斎行されました。流鏑馬関係者（神職も含む）は、一週間の潔斎が必要とし、神社内で寝食を共に致しますが、種々制約が有り、このことの遵守が大変です。（一例肉食は、鶏肉は可、その他は不可）で令和三年を迎え一層深刻な事態となり、正月の初詣は規制され、参拝者も激減致しました。一月十四日の深夜に斎行されました、筒粥神事は、例年の如くでした。筒粥占標が作成され、この地の穀物等の出来不出来が示され、その中に「道者」の箇所が有り、富士山へ甲州、信州、相州、駿州、武州よりの方々が来訪される占標が有りましたが、結局コロナの為登山は規制されました。流鏑馬例大祭も前年同様でした。

当神社の総代等の構成は、責任役員八名、総代会員は地区毎に一名～三名で二十三名、崇敬会十二名で兼務もあり計三十九名で構成されています。月一度は総代会（崇敬会含む）、責任役員会が開催され、神事行事の日程が決まります。因みに、今年度活動日は五十一回ですが、正月、例大祭は種々の作業が別途有り、室宮恵比寿祭のお札頒布、十二月には神宮大麻の頒布があります。境内の樹木の伐採清掃は全員参加です。当神社では、七頭の神馬が飼育されています。是非御来訪をお待ちしています。宮司を先頭に、全員が奉仕の心で一致協力しています。

# 祭典日程

1・30　富士吉田市新屋連神社節分追儺祭
2・1　大嶽山那賀都神社節分祭
2・3　住吉神社節分追儺式　稲積神社節分祭　甲府市中央大神宮例祭　甲府市中央大神宮節分祭　甲府市中央神明社節分祭　甲府市千塚八幡神社節分祭　忍野村忍草浅間神社節分祭　忍野村内野浅間神社節分祭　富士河口湖町船津八王子神社節分祭　富士河口湖町船津筒口神社節分祭　初狩町下初狩八幡神社節分祭
2・6　富士吉田市上暮地神明社節分祭
2・8　稲積神社針供養祭
2・11　甲府市宮前町八幡神社紀元祭　甲府市国玉町玉諸神社祈年祭（桑の棒神事）　身延町帯金八幡大神社祈年祭
2・13　甲府市酒折酒折宮祈年祭　山梨市下栗原大宮五所大神祈年祭　南アルプス市上今諏訪諏訪神社祈年祭
2・14　忍野村忍草浅間神社筒粥祭並びに秋葉祭　忍野村内野浅間神社筒粥祭
2・16　生出神社祈年祭
2・17　甲府市宮前町八幡神社祈年祭　富士吉田市松山松尾神社祈年祭　忍野村忍草浅間神社祈年祭　忍野村内野浅間神社祈年祭
2・20　韮崎市穴山町穂見神社祈年祭
2・21　大泉町谷戸逸見神社祈年祭
2・25　小淵沢町小淵沢北野天神社天神祭
3・1　弓削神社祈年祭
3・13　淺間神社山宮神幸祭
3・15　甲府市中央神明社例祭
3・19　昭和町西条義清神社祈年祭
3・20　高根町箕輪建部神社祖霊社例祭
3・21　一宮町橘立甲斐奈神社春季例大祭
3・27　一宮町末木両之木八幡宮春季例祭
3・29　増穂町天神中条天神中条天満宮天神
4・2　中條天満宮大祭　南アルプス市鏡中条巨摩八幡宮春季例大祭
4・3　勝沼町菱山古宮太神社春季例大祭
4・4　塩山上萩原神部神社例大祭
4・5　御坂町二之宮美和神社例大祭宵祭
4・3　住吉神社春季例大祭　石和町市部石和八幡宮春季例大祭　御坂町二之宮美和神社例大祭　山梨市正徳寺唐土神社春季例大祭　勝沼町等々力諏訪神社春季例大祭　石和町川中島比枝神社例大祭　南アルプス市百々諏訪神社春季例祭　南アルプス市上今諏訪諏訪神社御柱祭　南アルプス市小笠原笠屋神社春季例大祭　韮崎市穴山町御名方神社春季例祭
4・4　春日居町鎮目山梨岡神社例大祭　牧丘町西保中萱神社春例祭
4・5　山梨縣護國神社春季例大祭　八代町北熊野神社春季例大祭
4・9　富士吉田市大明見小室浅間神社例大祭
4・10　甲府市善光寺柴宮神社例祭　富士川町鰍沢八幡神社例大祭　甲府市下鍛治屋町鈴宮諏訪神社例大祭　甲府市小瀬町天津司神社春季例大祭　長坂町長坂上条穂見諏訪十五所神社春季大祭
4・12　武田神社例祭・神幸祭　甲府市宮前町八幡神社春例祭　藤井町南下条福地八幡神社春季例大祭　大月町花咲稲村神社春季例祭　賑岡町浅利神田神社春季例祭
4・13　武田神社岩窟墓所例祭
4・15　淺間神社例大祭・大神幸祭　甲府市中央甲斐奈神社例祭　甲府市国玉諸神社例大祭　御坂町二之宮美和神社三社神幸祭
4・16　甲府市高畑住吉神社春季例大祭　甲斐市長塚長塚神社春季例大祭　富士吉田市新倉富士浅間神社さくら祭り宵宮　富士吉田市松山松尾神社例祭（～十七日）　忍野村内野浅間神社例祭（～十七日）　初狩町下初狩八幡神社春季大嶽山那賀都神社例大祭（～十八日）
4・17　甲府市宝穴切大神社春季例大祭　甲府市国玉町玉諸神社郷土の祭り　甲府市酒折酒折宮献詠祭　富士吉田市新倉富士浅間神社さくら祭り
4・18　生出神社奥宮祭
4・19　富士吉田市新倉富士浅間神社例大祭

# 被表彰者抱負

## 神社庁規程表彰

甲斐奈神社
宮司　髙原光啓

〽白い着物に袴をはいて若い身空で神主修行

「神主小唄」の一節である。たしか同曲収録のCDアルバムが大学卒業の記念品として配られたと記憶しているが、在学中や卒業後も唄う機会は無く、なじみも無かったため、長いこと篋底にしまっていた。小唄のとおり卒業後は神主修行と相成ったわけだが、いま思い返すと、しくじりの連続で赤面するばかりである。奉務歴も二十年を過ぎたころ、父親の後をついで本務社宮司を拝命したが、これでいいのだろうかと自問自答の日々は今なお続く。

そんな折、規程表彰との報に接した。嬉しいことに同級生にして盟友の佐野浩一郎君と同時に受彰となった。そのことが関係してか、頻りに渋谷の学舎のことが思い出され、久しぶりに冒頭のアルバムを探し出したのだ。歌詞カードを開くと、お馴染みの校歌のほかに例の「神主小唄」に加え、「国大小唄」というものも収録されていた。そこに描かれる学生像はどこかバンカラで時代を感じさせるものだった。なかでも目を引いたのが「神主小唄」三番である。

〽人工衛星あがろとままよ／変わる時世に変わらぬものは伊勢の神宮と桜の花よ／生まれながらの神主よ

元号は変わり、病災は続き、世の変化は著しいなか、祭りと祈りを変わらずに実践する神職であれたことはありがたい。そして、氏子崇敬者・役員総代・家族・先輩同輩後輩とりまく人々に感謝の意を捧げたい。

「世のため人のために奉仕し…国の隆昌と世界の共存共栄とを祈る」と日々唱えるも、貫徹することはそう容易くはない。だとしても「神の恵みと祖先の恩とに感謝し…祭祀にいそしむ」しかない。頂戴した彰状をながめながら、そう誓ったのである。そして、例のCDは再び奥深くにしまわれたのであった。

## 山梨県神社総代会規程表彰

大嶽山那賀都神社
崇敬会会長　内藤久芳

令和三年十月二十八日、山梨県神社庁設立七十五周年記念大会において、山梨県神社総代会規定表彰を授かりました。誠に光栄なことであり御礼申し上げます。

顧みれば、病弱だった私を心配して「十歳の誕生日を迎えた時、大嶽山那賀都神社の土を踏ませますので健康に育ちますように」と願をかけた母の神様との約束を果たすため、父に連れられ参拝したのが、私の初めての神参りでした。

その後二十五歳過ぎ頃から長谷部先達の導きもあり、折に触れ家族で神社を訪れるようになり、氏子さんとの馴染みもでき祭典の準備のお手伝いをさせていただく様になりました。また仙台の盛久宮司の先達で、国師岳の大嶽山那賀都神社奥宮の祠に一晩籠る経験もさせて頂きました。

過疎の集落にある神社は、年月と共に氏子さんも亡くなり、一時は現在の盛幸宮司と私の二人で祭典や諸行事の準備を行った時もありました。今は、氏子に変わり大嶽山崇敬会役員が神社のお手伝いをさせて頂いております。

お祭りのお手伝いを行っていく中で、神社を訪れた参拝者と神職、またご奉仕する我々との心のふれあいが大事なのではないかと感じております。訪れた参拝者が「来て良かった、又お参りに来たい」そんな気持ちで帰っていただけるよう、これからも心を込めてご奉仕させて頂きたいと思います。

私は五十年ばかりの神社との関わりの中で、大嶽山那賀都神社の日原盛久前宮司、また甲斐奈神社（我が家の氏神様）の高原玄承前宮司お二方から「我欲を捨て己以外の者の為に祈り、己以外の者の為に尽くす真心」が大切である事を学ばせて頂きました。凡人の私にはなかなか近付けない心境であり、科学的根拠が全て、個人の幸せが優先される今の世の中では難しい事ですが、少しでも学びに近づく努力をし、また次の世代に繋げて行けたらと思います。

## 神社庁設立七十五周年記念表彰

### 内船八幡神社
### 祭典奏楽奉仕者

昨年十月二十八日ＹＣＣ県民文化ホールにて開催された「山梨県神社庁設立七十五周年記念大会」において「神社の維持運営、祭典振興等格別功績のある者及び団体」として、当社祭典奏楽奉仕者四名と八幡子ども太鼓指導者一名が受章の栄を受けました。

歴史ある当神社の祭典に欠かすことのできない奏楽は脈々と代々受け継がれてきており、受章された皆さんは他社の祭典にも奏楽を奉仕して地域のお祭りには欠かすことのできない貴重な方々であります。今回受章された山本満氏（八十七歳）、山本昭男氏（七十六歳）長田一男氏（七十七歳）、伊藤恵一氏（五十六歳）は、夏・秋の例大祭での祭儀の奏楽及び小学生女子による稚児の舞（鈴の舞）の奏楽、御幸祭での奏楽をしていただいており、青木良治氏（六十三歳）は、夏・秋の例大祭での男女小学生による子ども八幡太鼓の指導をしていただいております。諸氏ともに祭典の時期には、自己の技能の習熟や子どもたちの技能向上を含めて子どもたちに心の持ちようを伝えております。

奉仕いただいている年数は、山本満氏（四十八年）、山本昭男氏（四十二年）、長田一男氏（十三年）、伊藤恵一氏（二十五年）、青木良治氏（二十五年）と長きにわたり尽力していただいております。皆さんまだまだ現役でご活躍いただいておりますが、ご多分に漏れず後継者の発掘と育成については、今後課題となる事が考えられます。過疎化、少子化、地域の関係性の脆弱化（関心の低下）など中々先の見えない課題ではありますが、先人たちから脈々と続いてきている「祭り」を次の世代にその体験や口伝を継承し、「村の鎮守の祭り」の日には日本の音を響かせていきたいものです。

地域共同体としての「祭り」は、神社を核として、その地域の環境や氏子さんの心（精神状態）をハレの状態にし、その活力を再生活性化していく大事な役割があります。日常と非日常を区切り、非日常の中で祭り囃子が響きわたり、人々が結びつきを強め、心を結び、地域の文化の核として、そこに神社があるということを氏子の皆さんに広めていきたいと考えます。

あらためまして今回受章をされた祭典奉仕者の皆様に対し、日頃よりのご理解ご奉仕に南部内船八幡神社氏子会として深甚なる感謝を申し上げ、受章のお祝いを申し上げます。

## 神社庁設立七十五周年記念表彰

### 小室浅間神社
### 占人　渡辺忠嗣

霊峰富士に積もった雪が春先の突然の気候の変化で何年かおきに（定かではないが）雪崩が起き、その被害から村を守るために、先人の皆様の知恵と血のにじむような努力のもとで、砂防の為の石垣を組み、自然の猛威に立ち向かったこの場所が馬場となり、神社の例大祭である流鏑馬祭りが行われています。

この大祭が八百有余年、途切れることなく続けられている事と、歴史の古さは言葉で表現できるものではありません。

占人としての役目は九月一日の初馬揃、九日の中馬揃、十三日の潔斎始めから一週間女人禁制と食事の制限の中で十九日の本日を迎えるのです。潔斎の間、神職・馬主・馬方の両者の考えを尊重し、無事に大祭が済むように取り計らい、本日には着飾った朝馬夕馬が馬場を疾走した後の馬蹄で、火事・揉め事等を占う役目をさせていただいております。この結果を旧瑞穂村の皆様が持ち帰り、神職のもとで「お日持ち」をして、又一年が無事安泰のうちに過ごさせていただくことを祈願しております。この大祭に際して感激させられることは地域住民の皆様の理解はもとより神社総代・崇敬者の大勢の皆様が心を一つにして大祭が毎年執り行われることであり、大変感謝しております。今年度は多くの若い人たちが祭りに参加してくれました。「祭りがこんなに楽しいとは思わなかった。来年も是非参加したい。」と話を聞き、明るい未来を想像しているしだいです。

日本のより良い文化が失われようとしております。一昔前の貧しくも心豊かで、人を思いやるような素晴らしい土地柄になれれば良いと思っています。

年男
年女

# 令和四年 壬寅

## 人生の想い出

八幡神社　宮司　藤本　嚴

干支を七回巡らせて頂いた人生、改めて神々の恩頼に感謝しています。振り返ると、激動の昭和終戦の年、昭和二十年小学校入学です。時代は流れ高度経済成長へバブル時代へと進み、やがて崩壊し世界は変わって行く中、天皇陛下も昭和・平成・令和と三世代の御代替わりもしました。又我が国でのオリンピックも二回経験し昭和三十九年のオリンピック裸足の走者アベベを思い出します。東海道新幹線の開通もありました。今の世は長寿社会と云われる中、密の濃い人生を送って行きたいと思います。これからも神主として正中線を清掃出来る有り難さを噛み締め神明奉仕に努めて参ります。

## 年男を迎えて

小室浅間神社　宮司　宮下　重範

令和四年壬寅年、輝かしい新年を迎え、気が付けば六度目の年男となってしまいました。

「年男を迎えて」の原稿依頼を受け、改めて自分を振返る良い機会を頂戴したところです。

顧みれば、神明奉仕には縁も所縁もない身であった小生でしたが、三回目の年男を間近に控えた昭和五十九年に、産土神社（小室浅間神社）の宮司さんをはじめ、総代の皆さん方に請われて宮司さんのお手伝いとして神社の業務に身を投じたのが神明奉仕の始めでした。

当初は神職の資格も有せず、手本として宮司・祭務を補佐していたものの一〻二年を経過する中で、祭典に携るには神職の資格を持つ事が求められるところとなったのも、当然の流れでした。

しかし、公務員（市役所職員）として、また職場における立場もあり、神職の資格取得のために長期間休暇を頂くことは到底許されないことから、「（財）大阪国学院」の門を叩き、二年間の通信教育により神職の資格を得ることが出来ました。

以来、全体の奉仕者としての公務員と、部落の氏神社を通じた地域へのご奉仕と二足の草鞋を履いて日々の業務に奔走する中で、瞬く間に年月が経過し、いつしか三十年を超えて、何等これといったこともできずに時を過ごし、古稀も過ぎて、神職として年男を迎えるのも四度目となってしまいました。

この間、神職の諸先輩方や神社役員さん方をはじめ、関らせて頂いた多くの人達に出会い、人と人との繋がりや、人としてより良き社会生活を営むため様々な事を教え導いて頂き、おかげ様で今日の自分があると思う所であり、これまで凡ゆる場面において関わって頂いた皆さんに、改めて感謝する次第です。

また、古稀を過ぎ、数字の上では後期高齢者の仲間入りも近づいて来ている訳ですが、今日では昔に比して皆若くなっており、「年齢に八十%を乗じて得た数字が従前の年齢に相当する」と言われています。実際、諸先輩方がそれぞれの場面・立場において、現役で元気に活

躍されている姿を拝見すると、まさにその通りで、それに比し、自分などは、未だ五十代の青二才であり、これから地域社会の発展・安寧、斯界の繁栄のために、更に力を注いで行かなければならないと痛感し、心を引締めているところです。

加えて、ここ二年程の間、新型コロナ感染症蔓延のため地域社会が諸々の場面で委縮を余儀なくされて来ましたが、今年は勇猛な寅年に因んでコロナ禍を祓い除け、平穏な年となるよう願うものです。

## 年男として

黒戸奈神社　宮司　今澤昭彦

新年あけましておめでとうございます。二〇二二年「寅年」がスタートしました。

私は昭和三十七年十一月先祖代々神官家の次男として生まれ平成十八年に亡父の後継者として神職の道に進みました。それから十五年黒戸奈神社の宮司として地域の方又先輩神職方々のお支えを受けながら奉仕し本年を迎えました。昨年一昨年とコロナ感染症の影響で神社の祭典も縮小し寂しい祭りでしたが、本年は、以前の様な賑やかな祭りである様願っています。

今年は年男だけでなく還暦という人生の中でも、節目の一年となります。ここまで、あっという間でしたが、健康で生活又仕事が出来ている事を感謝しつつこれからも走り続けていきたいと思っております。

## 日々感謝

熊野神社　宮司　笹本恵

今年は、三十六年に一度廻って来る、五黄の寅年。壬寅である。私にとっては、母より二つ年上になり、四回目の年女を迎える事が出来ました。昨年流行った曲の歌詞より拝借し、♪～お金もないし、力もないし、地位も名誉もないけど～♪四人の子供に恵まれ、とても充実した幸せな毎日を送れています事、すべてに感謝しております。何と言っても、子供達四人が各々繰り広げられる、大変面白い物語の数々。笑いあり、涙あり。時々鬼顔に変身します（笑）これも、周りの人々に支えられ困った事があっても、助けて下さる方達がいて下さったお蔭であります。今年は長女が悩みつつも、自分で決断した道に進もうとしております。どんな物語が始まるのか、今から春の景色を見られるか楽しみの一つであります。

昨年、一昨年と約二年に渡り今だに終息する事ない、新型コロナウィルスが猛威をふるい、不要不急、三密での神事も危ぶまれましたが、縮小し、対策しながらの例大祭。神事のみがほとんどでしたが、数社で神輿渡御や神楽を奉納する事が出来ました。氏子さん達のご協力、常日頃より、神社に対する崇拝の念が篤く、尽力して頂いているからこそ、出来た事だと思います。残念な事に、まだ完全なる終息へとはなりませんが、一日も早く、日本と世界が平穏になりますよう、微力ながら神職として神明奉仕に励む所存です。あと何回年女を迎えられるかわかりませんが、神の世界に帰る迄、この生かされている事。幸せな日々に感謝の気持ちを忘れず、たくさんの物語と景色を見ながら、歩いて行きたいと思っております。ただ年を重ねただけで、神職として、妻として、母として、女性として、どれもまだ未熟であり、浅学非才な私でありますが、少しでも成長できます様日々邁進する所存であります。これからも、ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

「冬が厳しいほど、春の芽吹きは、生命力にあふれ、華々しく生まれる。」

厳しい年を越え、華々しい一年でありますように。

# 今後の予定

## ○神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会のお知らせ

神社庁神殿祈年祭並びに教化講演会を左記の日程で斎行いたします。

記

日　時　令和四年二月十八日（金曜・赤口）

日　程

神殿祈年祭　午後一時三〇分

教化講演会　午後二時三〇分

講師　山梨銘醸株式会社

代表締役社長　北原　対馬　先生

場　所　山梨県神社庁　神殿

※新型コロナウイルス（COVID-19）の感染状況により、急遽開催内容を変更（延期或いは中止）する場合もございますので、予めご了承願います。

## ○教化委員会研修旅行

教化委員会では三年に一度の研修旅行を企画いたしましたので、ご案内させていただきます。今回の旅行先は〝北部九州〟でございます。

皆様のご参加をお待ちいたしております。

宮地嶽神社

別府温泉地獄めぐり

宇佐神宮

記

旅　程　日　程

令和四年三月七日（月）

～九日（水）【二泊三日】

七日　県内各所→羽田

～福岡→宮地嶽神社・香椎宮

宿泊（福岡市内）

八日　志賀島→坂本八幡宮→日田→別府温泉地獄めぐり

宿泊（別府温泉）

九日　宇佐神宮→大分

～羽田→県内各所

参加費　一二〇，〇〇〇円

申込先　山梨県神社庁

電　話　〇五五―二八八―〇〇〇三

ＦＡＸ　〇五五―二八八―〇〇〇五

申込締切　令和四年二月八日

※直前の出発地、目的地の新型コロナウイルス感染状況等を考慮し、状況により旅行を中止とする場合がございます。

## ○靖國神社、山梨縣護國神社参拝旅行

神道政治連盟山梨県本部では、恒例となりました靖國神社参拝旅行を左記の日程で実施致します。詳細な内容につきましては現在検討中ですので、決まり次第ご案内致します。山梨縣護國神社の参拝につきましては、別途開催致します。

尚、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大状況により、急遽開催内容を変更（延期或いは中止）する場合もございますので、予めご了承願います。

記

日　程　令和四年三月二十九日（火曜・仏滅）